

「思考力」を高める問題解決的な学習指導の在り方

～アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の提案～

福島県教育センター 調査研究チーム 指導主事 木戸 美智子

1 研究の趣旨

学力向上は、本県の児童生徒における喫緊の課題の一つである。全国学力・学習状況調査等の各種調査から、特に、思考力・判断力・表現力など知識・技能を活用して問題を解決する力と、そのために必要な資質・能力を伸ばすことが課題となっている。その要因を分析するために、県内の各教育事務所指導主事に問題解決的な学習の実施状況について質問紙調査を行ったところ、形骸化された「問題解決型」の授業が散見されているという実態が浮き彫りになってきた。このことにより、問題解決的な学習の質の変換は急務であるといえる。

そこで重視すべき授業改善の視点が「主体的・対話的で深い学び」というアクティブ・ラーニングの視点である。「主体的な学び」や「対話的な学び」の在り方が、教科横断的であるのに対し、「深い学び」の在り方については、各教科等の特質に応じて示していく必要がある。各教科等で習得した知識や考え方を活用し、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成して表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」を実現させるには、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を育成することが重要となる。

本研究では、「一人一人が自分の考えをもって他者と対話し、考えを比較吟味して統合し、よりよい考えや知識を創り出す力、さらに次の問いを見付け、学び続ける力」を「思考力」としてとらえ、研究を進めることとした。この「思考力」は、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現する「問題発見・解決の過程」を通して育まれていくものである。そのため、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を育成し、「主体的・対話的で深い学び」を実現させることが、「思考力」の高まりにつながると思われる。

一年次の今年度は、研究の対象を算数・数学科に絞り、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実現させるポイントを提案する。さらに、研究協力校3校における実践事例から、アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業づくりのポイントや手だて等を明らかにしていきたい。そして、本研究から得られた知見を県内の教員に普及し、実践に生かすことができるようにすることで、児童生徒の「思考力」の育成に寄与したいと考えた。

2 研究の概要

- (1) アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実現させるポイントの提案
- (2) 研究協力校における試行的授業実践
- (3) 実践に基づくアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実現させるポイントの修正
- (4) 調査研究内容の発信

3 研究の経過（現時点での成果と課題）

- (1) 研究の成果
研究協力校の授業実践を通して、具体的な事例を基にしたアクティブ・ラーニングを取り入れた学習指導のポイント（算数・数学科）を整理することができた。
 - ① 育みたい力を明確にした単元・授業構想
 - ・ 育みたい「数学的な見方や考え方」を明確にし、「問題発見・解決の過程」に位置付ける。
 - ・ 習得・活用・探究を見通し、実態に応じて柔軟に単元や授業を構想する。
 - ・ 「深い学びが実現できているか」という視点で、授業リフレクションを行う。
 - ② 本質的な問いから始まるアクティブ・ラーニング
 - ・ 本質的な問いを引き出す。
 - ・ 子どもの問いを連続させ、問題解決的な展開にする。
 - ・ 言葉・図・式を関連付ける算数的活動を充実させる。
 - ・ 振り返りの充実で学びを実感させる。
- (2) 今後の課題
 - ① 研究協力校の授業実践を通して、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の有効性を検証していきたい。
 - ② 算数・数学科以外の教科においても、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を明らかにし、「深い学び」の具現化を図り「思考力」を高める学習指導のポイントを提案したい。